

第56回

松山市民俳句大会

第56回松山市民俳句大会が2月11日、子規記念博物館で開催されました。募集句1638句、当日句238句から特選(65句)に選ばれた句のうち、市内在住者の句を紹介します(●は複数の選者に選ばれた句です〔敬称略〕)。

募集句

高岡 周子 特選

冬の夜に蛍光ペンを引くところ

森山 京子(石手)

犬の鼻猪の匂ひにつきあたる

仲村 満里(星岡)

江崎 紀和子 特選

臘八粥しまひは番茶注ぎけり

稲積 和子(古川北)

今日の日をまぶたで閉ぢる霜夜かな

徳永 陽子(鷹子町)

●猪狩のてんまつ無精髭の濃く

杉山 望(祝谷)

渡邊 狐鷲 特選

今食べたのは鮫鱈のどのあたり

松本 麗子(中村)

●猪狩のてんまつ無精髭の濃く

杉山 望(祝谷)

木下 節子 特選

山茶花や垣根の奥の夕餉の灯

三好 眞喜子(南久米町)

短日やセールスマンの捨台詞
山川 敏子(平井町)

福谷 俊子 特選

開封の儀の白き手袋そろひけり

崎山 久美子(善心寺)

横田 青天子 特選

干蒲団叩くしあはせさうな音

西村 スミ(星岡)

長岡 静子 特選

鱈大根煮ておふくろと呼ばれいる

玉井 淳子(枝松)

●唾唾と野鴉極月の八日来ぬ

塩崎 純二(溝辺町)

相原 典子 特選

復興と大きく手書き蜜柑箱

三谷 恵子(高井町)

天野 滋子 特選

年つまる豪雨に消えし暮しの灯

岩本 貞子(土居田町)

大噓して起きてゐる二階の子

明上 淑子(府中)

野にかへる畑は無言や冬の雨

寒川 洋子(西垣生町)



246人が参加した当日の様子

岩淵 晃三 特選

若沖の羅漢の黙や笹子鳴く

梅木 由紀美(朝生田町)

十二月八日瓶の口押ふ

菅 啓子(久万ノ台)

●一途なる頃あり青き檸檬の香

高橋 佐和子(清水町)

菊野 咲子 特選

薔薇の棘露一滴を宿しけり

相原 無為(星岡)

お隣りと本の貸し借り一葉忌

玉井 セツ子(和気町)

佐々木 真理 特選

●唾唾と野鴉極月の八日来ぬ

塩崎 純二(溝辺町)

初産の牛へみそ汁寒の月

中矢 長宗(南斎院町)

杉山 望 特選

耕して耕して父逝きにけり

仙波 節子(千舟町)

夫の座に夫いて安し去年今年

山本 千代香(祝谷東町)

高須賀 経匡 特選

日の暮れて声の澄みたる亥の子唄

高橋 由三子(東方町)

豊田 耕造 特選

障子貼る言ひたき事を言ひ合うて

大西 信子(久谷町)

中矢 利麗 特選

少年の初心揺るがず冬北斗

原田 和子(北条辻)

林 理恵 特選

冬木立仰ぎぬ古稀を一つ過ぎ

忽那 スミ恵(祝谷)

天井の龍と目の合ふ七五三

花山 恵子(星岡)

冬萌や鍋のやうな一語欲し

杉山 美幸(谷町)

本郷 和子 特選

●一途なる頃あり青き檸檬の香

高橋 佐和子(清水町)

山内 和子 特選

区切られた命をすぎて見る紅葉

夷子 禮子(高砂町)

ブランケットに包まれて読む山頭火

西川 慶子(西長戸町)

当日句

高岡 周子 特選

●水音を心音として山眠る

玉井 淳子(枝松)

渡邊 狐鷲 特選

雪を来て羽化することしもんぺ脱ぐ

赤崎 アヤ子(南久米町)

木下 節子 特選

雪もよひ書き出し迷ふ見舞状

柴田 芳江(正円寺)

福谷 俊子 特選

吾が魂をつつむ日の香も梅の香も

青木 治敬(石手白石)

横田 青天子 特選

巢立つ子へ梅一輪の香を放つ

和田 理榮子(衣山)

長岡 静子 特選

母の忌や母の席ある春炬燵

竹内 鶴来(小村町)

池川 紀子 特選

漆黒の闇に凍てつく仮設の灯

原田 和子(北条辻)

武市 公子 特選

●水音を心音として山眠る

玉井 淳子(枝松)

子規記念博物館 ☎9315566
FAX 9343416